

Cheers

チアーズカラットしが アットオフィス

CARAT Shiga

@Office

家庭で頑張る男性を
オフィスから応援！

男性だって子育てがしたい！

実現のカギは職場の応援！

あなた

家庭での男性活躍に向けて
あなたの職場の、
“パパ”へエールを！

職場では見せない“パパ”の顔
素顔のイクメンインタビュー

楽しく働き続けるために
イクボス・イクメン
それぞれの想い

イクメンの働きやすい職場とは？
県内企業の取組を紹介

男性が家庭でも輝ける社会に！

家事・育児に積極的に参画する男性を「イクメン」と呼ぶようになって随分経ちます。「もうイクメンなんて当たり前」と思われる方もいるかもしれませんが、実は、今でも男性が1日に家事・育児にかける時間は、共働き世帯でわずか38分と、女性の4時間18分と比べて2割以下に過ぎません。

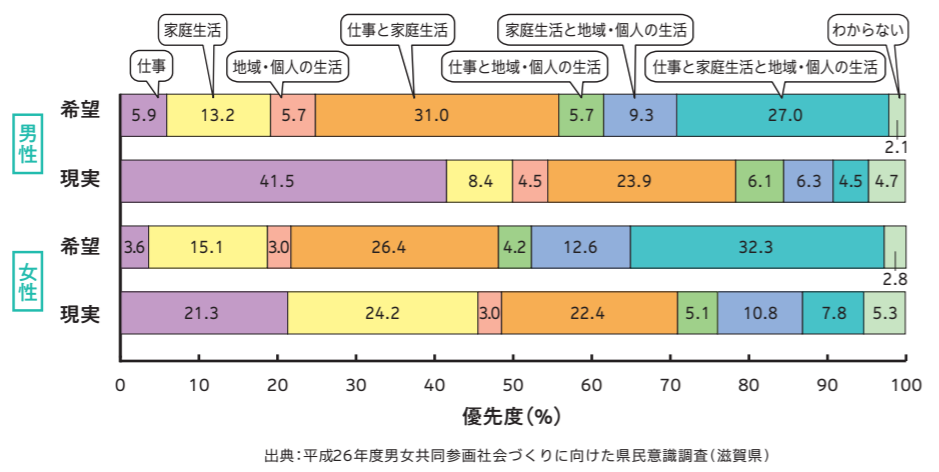
男性が家事・育児に積極的に参画しない(できない)と、女性は家庭における役割のほとんどを1人で背負うことになる、自分の仕事やキャリアを犠牲にせざるを得ないことから、男性の家事・育児参画は、女性活躍を進めるための重要な鍵でもあります。

育児のための休暇も取得しにくいなど、職場で担う役割が大きいのが現状です。男性が職場だけでなく家庭でも輝ける社会を実現するためには、まず、子育てをする男性が職場だけでなく家庭においても大きな役割を担っていることを、共に働くすべての人が理解し、積極的に家事・育児に参画しようとする男性を、職場から応援していく必要があるのです。



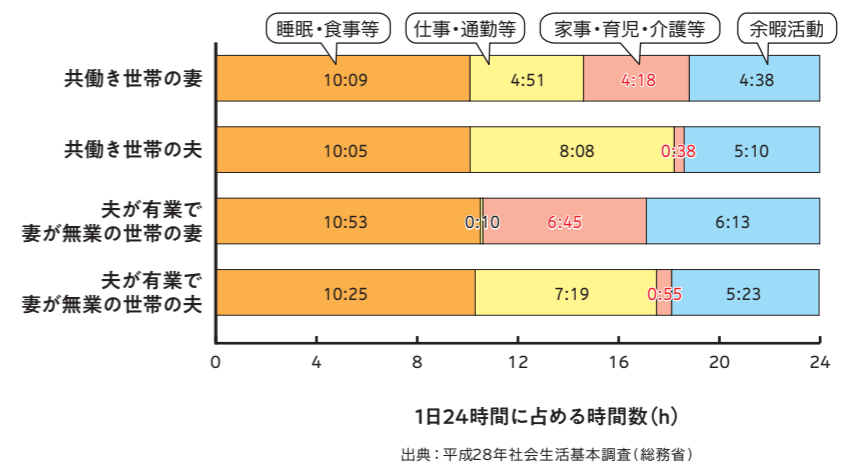
職場では見せない“パパ”の顔がある

● 男性、女性ともに、「希望」では、仕事と家庭生活を共に優先したいと考え、男性は仕事を最優先する人の割合が高く、女性は家庭生活を最優先する人の割合が高くなっています。



生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度(滋賀県)

● 夫婦の生活時間を見ると、妻の有業・無業に関わらず男性の家事・育児等時間は1時間にも満たないことがわかります。共働き世帯であっても、家事・育児の負担が女性に極端に偏っているのが現状です。



夫婦の生活時間(滋賀県)

機会を逃さず 育児休業を取得。

子育ては おもしろい！

イクメン
赤澤 利幸さん



【赤澤 利幸さん】滋賀県栗東市在住。大崎設備工業株式会社で、滋賀県全域にある病院や学校等の設備工事の現場監督を務める。家庭では5歳と生後10ヶ月になる2児のお父さん。



約2週間の育児休業を取得

建設現場で設備工事の現場監督をしています。担当している現場が勤務地になるので、現場が遠いと朝6時に家を出たり、近いと少し余裕があったりと生活時間はその時々で変わります。
昨年の4月に工事がひとつ終わり、次の工事が始まるまで仕事に余裕がありました。当時は下の子が生まれてまだ3ヶ月、2人の子どもを1人でみる大変さは想像できたので、それなら休みを取って僕が上の子を見ることはできるな、と思いこのタイミングで約2週間の育児休業を取得することにしました。

子ども達も、パパ大好きに！

育児休業中は子どもと一緒に時間が増えるので、子ども達が慣れて自然に寄って来てくれるようになったのがうれしかったです。家事や育児の分担はぎっちり決めず、子どもの相手や洗い物など、その時必要なこと、できることを見つけてやっていました。今でも子ども達をお風呂に入れる、上の子を寝かしつけるのは僕の役目です。

家事ゼロの夫から イクメンへ。 やればできる、 できると楽しい！

イクメン
野口 勇樹さん



【野口 勇樹さん】滋賀県甲賀市在住。水口医療介護センターで、病気やケガなどでリハビリが必要な方を支援する作業療法士として勤務。家庭では8歳、5歳、3歳の3児のお父さん。

家のことは夫婦で補い合う

僕は作業療法士、妻は言語聴覚士として働いています。妻は、土日に仕事に出ることも多いので、そんな日は僕が3人の子どもたちを連れて遊びに出かけたり、一緒にご飯をつくったりしています。
平日は、朝は妻が朝食を作る間に僕が保育園の持ち物を準備し、夜は妻が夕食を作る間に洗濯物を畳んでおくなど、ルールとして決めているわけではありませんが、得意な家事を自然と分担するようになりました。

何もしない夫からイクメンへ！

結婚するまでは家事は嫌いだったし、ごはんは座っていれば勝手に出てくるものだと思っていたので、本当に何もしない夫でした。それが、妻が育休から復帰した日の朝、あわただしく朝の家事をしている妻を横目に、テレビを見て笑っていた僕に、妻の怒りが爆発し、「これじゃいけない」とやっとなづいたんです。はじめは何をすればいいのかもわかりませんでしたが、自分ができるかなと考えながら動くようになり、今では

子育てをするのは自然なこと

子ども達の成長を見るのはおもしろいです。最近、下の子が初めてひとりで立った時は、うれしくて感動しました。仕事は自分の段取り次第でメリハリをつけることができるし、上司も「子どものために早く帰り」と声をかけてくれます。子育てをするのは、僕にはすごく自然なこと。楽しんでやっています。

普段から子ども達を見てくれて、すごく感謝しています。育休でパパがいるとママも助かるけど、特に上の子は普段我慢させることが多いので、パパと遊べてうれしそうでした。子ども達は2人ともパパが大好きです！
赤澤 祥子さん

ママからパパへ



他のパパに良い影響も

上の子が1歳ぐらいの頃、僕が子どもと2人で外出しているのを見た他のお父さんが「自分にもできるかも」と思ってくれたのはうれしかったです。子どもはすぐに大きくなるので、今のうちにたくさん遊んでもらおうと思っています！

娘からパパへ



お父さんが作ってくれるチーズハンバーグはすごくおいしいです！いつもいろんな所に連れて行ってくれるし、ハムスターやメダカの世話も一緒にしてくれる、優しいお父さんが大好きです。
野口 陽菜乃ちゃん

Q. 育児をしたことで、変わったことはありますか？

n数		子どもがなつくようになった	妻や子どもとの関係が良くなった	近所付き合いが増えた	自分の成長を感じた	
全体	(255)	63.9	49.4	47.5	45.9	
年代	30代以下	(133)	63.2	54.9	44.4	44.4
	40代	(100)	67.0	49.0	54.0	48.0
	50代	(22)	54.5	18.2	36.4	45.5

※50代は、参考値扱い

出典：イクメン宣言者の宣言後行動リサーチ（厚労省）

●育児をして変わったことは「子どもがなつくようになった」で63.9%、次いで「妻や子どもとの関係が良くなった」(49.4%)、「近所付き合いが増えた」(47.5%)と続きます。

イクメンアンケート 育児をして変わったこと

男性育休のススメ。

1 子育てって毎日何するのかな？ やることあるかな？

2 めっちゃ大変!!!!

3 初たっち!!

4 仕事でも効率や気配りの面で大きく成長できました!!



[金戸 保之さん]
滋賀県長浜市在住。鈴木ヘルスケアサービス株式会社で勤務して18年目。デイサービスセンターやグループホーム、小規模多機能ホーム等の統括や人事など社内業務全般を幅広く担当する。家庭では10歳、6歳、2歳の3児のお父さん。

イクメン

きんと 金戸 保之さん

家事や育児をすることで、仕事にも良い影響が。

育休を利用して出産に立ち会えた。

自社が運営するデイサービスセンターなど、お年寄りに来ていただく施設の統括を担当しています。現場に出ることもありますが、管理職なので普段は週末が休みです。土日でも働く妻に代わり、休日はまる1日子ども達の相手と家事全般をやっています。子どもが生まれるまで家事をやったことがなかったので、毎日ごはんを作る大変さが本当によく分かりました。2年前に3人目が生まれた時は、育児休業を取って出産に立ち会うことができました。予定日より早く急なことだったので、会社も早く受け入れてくれてありがたかったです。



家族と過ごし元気をチャージ。

介護関係の仕事をしていると「休みが取れない」「夜遅くまで働いている」という話をよく聞きますが、うちは17時半で帰れているので働きやすいです。職場にいればやることはいくらでもありますが、人と接する仕事なので疲れた顔を見せるより元気を提供できる存在でありたいと思います。早く帰ると子ども達も喜んでくれますし、自分の体調管理も含めて家庭での時間を大切にしています。

パパママが働きやすい職場。

子どもが生まれて家庭を持つ感覚が分かると、職場での心境も大きく変わりました。女性が多い職場なので「お母さんが遅くまで働いているよりも、早く帰ってもらった方がいいな」と思うようになりました。僕も毎日家でやることがあるので効率を考えて働くようになったし、男性は家庭を持つたら家のこともしっかりした方が、仕事にも良い影響が生まれると思います。

まず現場の声を聞くことから。

介護サービスの利用者は圧倒的に女性が多いので、同性介護のためには女性職員が必要ですが、結婚や出産での退職が多いことが悩みでした。そこで現場の職員向けにどんな制度があったらいいかアンケートを実施して、要望の多かった時短制度や、1時間単位で取れる時間有給、子連れ出勤などを導入しました。その結果、職員の定着率はかなり上がったと思います。

実際に利用できる制度へ。

制度を作っただけでは、「実際に使うと他の人に迷惑がかかるのでは」と心配する職員が多く、なかなか利用が進みませんでした。そこで、まずは管理職クラスが率先して制度を利用することにしたところ、職場全体に「使っているんだ」という意識が浸透しました。今は育児休業や時短制度を始め、時間有給を利用することで、登下校の見守り当番やPTAなどの学校行事の準備などに参加するなど、男女ともに制度を上手く活用しながら仕事と家庭を両立させています。

男性の家事・育児参画が大切。

これからは、女性だけでなく男性の家事・育児への積極的な参画をもっと推進していきたいと考えています。家庭のことがよくわかるようになりますと、同じように家庭を持つ女性に共感できることも増え、女性にとっても働きやすい職場になるからです。女性の多い職場だからこそ、男性の家事・育児参画は重要です。働いてくれる職員に常に向い環境を用意できるように頑張っています。



制度が使える環境を整備して、お互いが助け合う職場へ。

イクボス

鈴木 則成さん

[鈴木 則成さん]
滋賀県彦根市在住。鈴木ヘルスケアサービス株式会社で代表取締役を務める。女性が8割以上を占める職場環境で男性も女性も仕事と家庭の両立がしやすい制度の充実と利用推進を積極的に行う。



Q.子育てをするようになって、残業する時間は変わりましたか？

		減った	変わらない	増えた
全体	(255)	62.4	33.3	4.3
年代	30代以下	65.4	30.8	3.8
	40代	57.0	37.0	6.0
	50代	68.2	31.8	0.0

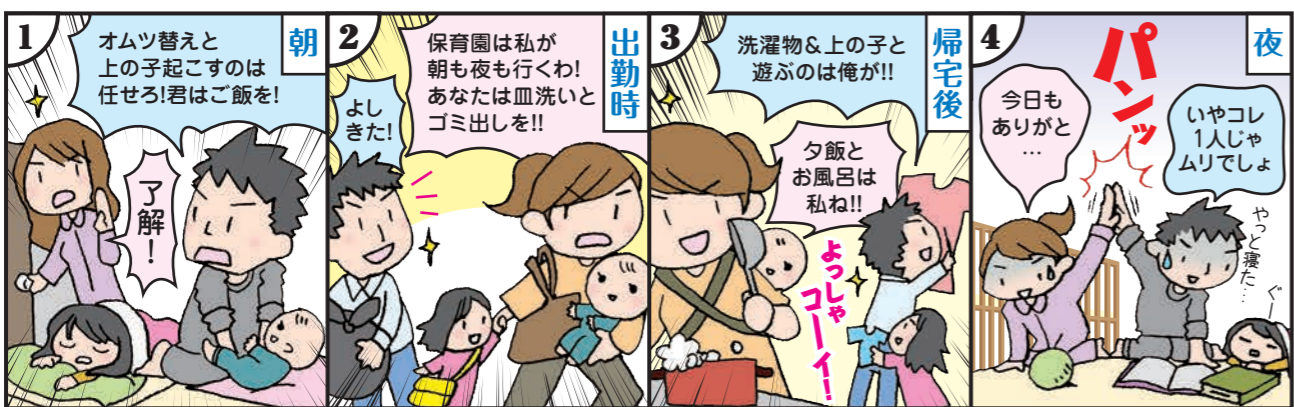
※50代は、参考値

出典：イクメン宣言者の宣言後行動リサーチ(厚労省)

●「残業時間が減った」が最も高く62.4%。
●30代と40代では、30代の方が「残業時間が減った」割合が高くなっています。



イクメンアンケート 残業時間の変化



最高の相棒

